

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0893400036
法人名	社会福祉法人清河会
事業所名	サングリーンピア大子ケアセンター ユニット名(グループホーム)
所在地	茨城県久慈郡大子町頃藤4144
自己評価作成日	令和 4年 9月 10日
評価結果市町村受理日	令和 5年 1月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0893400036-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和4年11月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は奥久慈の自然に恵まれ、四季折々の景色を眺めながら日々の生活を送っております。また、絵画が得意な職員がおり、こちらも季節に応じた作品を展示させて頂く事でご利用者様は毎回、大変喜ばれております。天気の良い日は、ご利用者様の布団干しをする等、自宅での習慣を継続して支援しております。近隣住民の方の協力で施設隣に畑をお借りしており、季節ごとに野菜を作り、採れたての旬の野菜を使った味噌汁、漬物などの食を楽しませて頂いております。コロナ禍において毎月の行事では外出イベントは控えさせて頂いておりますが、その分施設内行事での余興が大変盛り上がりしております。地域との交流のこれからの取り組みとして、現在、直接的な交流が出来ていないので、山隣の養護学校と話し合い、お互い作成した作品を交換して展示する等の間接的な関わりを来年1月頃より計画しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は恵まれた景色の中に立地する。同敷地内のデイサービス、小規模多機能ホームとは連携をとりながら支援を展開している。感染症予防対策に配慮しつつ、一人ひとりに目が届く細やかな支援を工夫しており、食に楽しみが持てるよう畑で収穫した季節の野菜をふんだんに採り入れ、車窓ドライブやレクリエーション等を行っている。毎月、各利用者の様子写真と、担当職員が手書きで家族等へこまめに報告をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所職員が作成した理念を事業所内の見やすい場所に提示と、職員証ホルダーケースに常備して、各自で黙読、復唱しております。又、毎月の職員ミーティング時に唱和して共有を図りながら理念に沿ったサービスを実施しております。	残存能力を活かした自立支援と生きがい支援の取り組みに力を入れている。朝の掃除や食事の下ごしらえ、おやつ作りなどで、できる事、得意なことを手伝ってもらいやりがいを感じてもらっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍において例年通りの地域との交流は出来ていませんが、地元住民の方のご協力で施設隣に畑をお借りして、季節ごとの野菜を収穫し旬の野菜を使った味噌汁、漬物等の食を楽しませて頂いております。	音楽療法のボランティアをできる限り受け入れている。特別支援学校との連携を再開する一環として、手作り作品の交換展示をするための打合せを始めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話相談や相談に来所された方へ、認知症の症状の理解や支援方法をお話しさせて頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	社会情勢を考慮しつつ、2か月に1回の運営推進会議は関係者に書面のみ提出となっておりますが、文章や写真入りの「センター便り」身体拘束排除委員会の会議録を配布して利用者様の生活状況や事業内容を報告しております。	現在は書面開催をして委員に事業所行事や取り組み、利用者の状況などを報告している。1年前に対面で開催した際には利用者も参加した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町役場関係者や地域包括支援センターから、町の福祉関連の情報を頂いております。役場窓口訪問や電話にて介護保険情報や利用状況、待機者状況報告等を行っております。	介護保険の運用上の疑問点や運営上の問題点を相談し、助言を得るなど良好な関係作りに努めている。管理者が大子町地域密着型サービス協議会の監事に就任するなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除委員会を2か月に1回実施し利用者の身体拘束排除を目指して、利用者に対し身体拘束をしない様、安全な環境を目指して職員教育や訓練、施設の整備等をし、利用者様が安心して暮らせる環境作りを行っております。	身体的拘束排除のための指針を作成し定期的に委員会を開催している。年1回職員が勉強会を行っている。マニュアルや身体拘束に関する書類を整備している。	
		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者のお宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内外で高齢者虐待防止法について勉強する機会を設け、職員間で共通認識と理解が図れる様、日常の業務の中でも職員同士がお互いに注意を払いながら、虐待防止に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内外で権利擁護について勉強する機会を設け、職員間で共通の認識と理解が深められる様努めております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時に、重要事項説明書や契約書及び利用料金について、ご家族様やご利用者様の理解、納得が得られます様十分な説明を行っております。内容の変更や改定等の際には事前に文章にてお知らせする様契約書に明記、説明しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に事業所、第三者委員の苦情相談窓口を明記して、契約時に説明しております。運営推進会議開催時はご家族様にも参加して頂き、町職員、民生委員、地域住民代表の方や事業所職員との意見交換を行っております。	重要事項説明書に苦情相談受付窓口を明示している。窓越しでの面会時や、事務連絡の電話時に、必ず意見や要望を聞いている。事業所内で対応に努めたり法人本部に報告をするなどして対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員会議や主任会議に参加して職員からの意見や要望を聞く機会を設けております。又職員一人ひとりと会話できる機会を作る様心掛け職員が気軽に意見を出せる様努めて、必要事項は代表者へとつなげております。	利用者とお茶を飲みながらいつでも話し合いができる雰囲気がある。レクリエーションや行事などのアイディアは、積極的に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価シートの提出を行い、職員個々の職場環境や労働条件などに対する意見や希望を参考として職員各自がやりがいや向上心を持って働ける様環境や条件の整備に努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が法人内外の研修に参加できる様配慮しております。職場内研修や勉強会も随時行っております。職場内でも、常に職員の活動に目を配り力量を把握して必要な助言や指導を行う様努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町主催の勉強会に積極的な参加を促し、他事業所とのネットワーク作りに取り組み、情報交換等を通じてサービスの質の向上に取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前の段階でご本人様の実態調査を行い会話の中の何気ない言葉に耳を傾けご本人様の思いを感じ取り受け止められます様、受容と傾聴の姿勢に努めております。表情にも気を配り、確認しながら細やかな説明を行っております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の今までの苦勞をねぎらい、今後、安心してサービスを利用して頂けます様、ご家族様の不安や要望を気兼ねなく話して頂ける様な関係作りに努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始前の面談において、ご本人様やご家族様が、今必要としているであろうと思われるサービスを見極め、他のサービスや社会資源を必要としている場合には、情報提供や紹介等の対応に努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の心身の状態に合わせて、日常生活の活動を共にして頂き、暮らしを共にするもの同士の関係作りに努めております。長年培ってきた生活の知恵や工夫等を教えて頂き、大先輩として敬いながら共に生活するものとしての関係を築いております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご本人様の生活状況を記録し、ご家族様へお届けしております。又、ご本人様の心身の状態の変化や気付き、ご利用者様の思い等、細やかに連絡を取り、常に情報を共有しながら支援しております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通い慣れた理美容院や主治医、歯科受診、馴染みの店で買い物等が出来ます様、予約や送迎、付き添いを行っております。	入居時に背景について本人や家族等からの聴き取り、日々の生活の中での会話や関わりなどから把握してフェイスシートを作成している。馴染みの関係が継続できるような支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を常に観察しながら把握して、座席の配慮等に気を配っております。利用者様が孤立しない様に職員が目配り気配りを行い利用者様と一緒にお茶を飲み声掛け等で会話を楽しんでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等で契約終了となられたり、他施設へ入所となられた後も、ご家族様等から様子を伺う等関係性を大切にしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者様一人一人の暮らしに対する意向を把握できます様、基本情報や生活歴などの情報入手や確認に努めております。毎日の何気ない会話の中の仕草、表情等からも思いを感じ取れます様情報共有に努めております。	日々の支援の中で何気ない会話から、新たな思いの把握に努めている。得られた情報は申し送りノートに記載し、共有化に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申し込み時点から利用開始までの訪問などで、継続してご本人様、ご家族様への聞き取りなどで必要な情報の把握に努めております。担当ケアマネやサービス事業所との連携、情報収集を行い現在に至るまでの経過の把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自立されている事と、支援が必要な事を抽出して一人一人の生活リズム表を作成して職員間で情報を共有しております。日々の生活状況を記録し申し送りにて情報を共有できる様に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様の意向を確認、毎月のモニタリング表や支援経過記録、ご本人様の言動を基に課題を把握して職員で話し合い作成しております。利用者様の心身に変化が生じた場合は計画の見直しを行い現状に即したケアプランを作成する様、努めております。	初回計画書は管理者が作成し、その後は毎月のモニタリングをもとに計画作成者が更新計画書を作成している。短期目標は半年、基本は1年で見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活上の様子や変化、気づき等は個別記録へ記入。特に重要と思われる事柄は「申し送りノート」へ記入して、必ず全職員が目を通して各自確認のサインを義務付け情報共有に努めモニタリングにてケアプランの見直しに活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の対応が困難な時の受診同行や買い物援助等、変化するニーズに応じて柔軟な対応を心掛けております。入院時の洗濯物対応や介護用品補充なども行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用様が毎日安心して過ごす事が出来ます様主治医や他医療機関、警察、消防、関係機関との連携を図っております。感染予防の観点から近隣の小中学校、保育園等の行事参加、地域ボランティアの受け入れは現在、中止しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	長年信頼関係を築いてこられた「かかりつけ医」への受診を継続して頂けます様支援しております。感染予防の観点から、現在は施設対応での受診を行っており、受診後は必ずご家族へ報告をしております。	これまでのかかりつけ医への継続受診が可能なことを契約時に説明して継続受診を行っている。受診には基本家族等が付き添い、医師へはメモや口頭で状態の説明をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を取り入れ、訪問時には個々の情報提供を行い、特に気になる状態や変化が見られる時には、相談をして適切な医療や看護が受けられます様、支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院となった場合には安心して治療が受けられ、早期退院ができます様、医療機関への情報提供を行います。入院期間中、病院へ出向きご本人様の様子を確認したり、関係者からの聞き取り等を行い、医療機関との連携を図れます様支援させていただきます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約段階の重要事項説明書において、事業所の終末期に向けた対応を明記して、ご家族様に説明を行い同意を頂いております。	契約時に看取りを行っていない施設であることを説明している。状況の変化に応じて話し合いを行っている。緊急時対応マニュアルを整備するとともに緊急時には隣接する施設の看護師が来ている。	万が一に備えて、重度化や緊急時の対応について、研修を行うことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者様の急変や事故発生時に備えて、AEDの使用方法や緊急時の対応などの勉強会を定期的に行っております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	従来は地震や火災を想定した日勤、夜間体制の避難訓練を全職員が体験して身につけられる様、年数回行い、年1回は消防署長や車両の派遣を要請して消火訓練等を行っております。運営推進会議時に避難訓練を行い非常時の支援をお願いしております。	夜間想定を含む避難訓練を行っている。反省会を行い話し合いを行っているが事業所独自の記録を作成し、課題を抽出するまでには至っていない。	避難訓練の反省を行っているが、事業所独自の記録がない。次回に向けた課題を明確にし、記録整備を行うことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が利用者様一人ひとりを個人として尊重して尊厳ある声掛けを行っております。入浴や排泄関係の声掛けは耳元で行う等羞恥心や自尊心に配慮しております。個人情報関係の書類は鍵のかかるキャビネットに保管しております。	利用者の尊厳に配慮した言葉かけに努めている。個人情報に関する同意書を得ている。職員は日頃より話し合いを行っている。スピーチロックについてなど、高齢者の権利擁護の研修を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中でご利用者様への声掛けや関わる機会を多く持つ事で、ご利用者様の発する言葉や行動表情にも気を配る様に努めております。日中の過ごし方など可能な限り自己決定できます様働きかけを行っております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は強制する事なく、食後の自室でのテレビを見ながらの静養や施設内散歩など、一人ひとりのペースで過ごして頂けます様支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせてご本人様の好みの服を着用できます様、ご家族様と連絡を取りながら、衣類の入れ替えや整理などの支援を行っております。常にご本人様専用のブラシを身近に置き、整髪して頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	歩行可能な方には配膳下膳のお手伝いや、お盆拭き野菜の下ごしらえ等を一緒に頂いております。職員も一緒にテーブルで同じメニューを頂き会話を楽しみながら食事をしております。季節行事や旬を大事にした食事を心掛けております。	材料は外部業者に委託している。調理専門の職員が、畑の野菜を献立に取り入れ、季節感豊かなメニューを提供している。季節のメニューを取り入れ、器や盛り付けにも演出を工夫して、食事を楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様の好みや摂取量の状態に合わせ形状を変えたり、量の調整等を行っております。認知症の進行で食事摂取量が低下してしまっている利用者様には声掛けや状況によっては介助にて支援しております。水分補給回数も多く取っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施しております。自力歩行可能な利用者様は日課となり自ら洗面台へ向かう姿が見られます。移動困難な方には水と吐き出し用ボールを席に運ぶ等支援しております。夕食後は義歯洗浄剤にて消毒しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様個々の排泄パターンを記録。把握してリズムに合わせてトイレ誘導を行っています。出来るだけ自力での上げ下げができます様、心身の状態に合わせた介護用品を使用しております。	排泄チェック表から利用者それぞれの排泄パターンを把握して声掛けするとともに、本人の自由なタイミングでトイレに行き、自立したトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食に乳酸菌飲料。おやつにヨーグルトを定期的に提供。朝晩ラジオ体操や健康体操を実施。特に夕方の体操には腸の活動を促す様に捻りを取り入れております。排泄管理表にて個々の排泄リズムを確認して、数日排泄のない時には医師や看護師の指示を仰いで対応しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	身体的な負担を考慮して週2回の入浴としておりますが、ご希望によりいつでも入浴可能となっております。ご利用者様の希望や状況により臨機応変に対応させて頂いております。入浴剤や季節に合わせた葛根湯など楽しんで頂いております。	ゆず湯やりんご湯など季節に応じて楽しむことができるよう支援している。浴室にはエアコンを設置して安全にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の意向や体調に合わせ、居室での休息を自由にお取り頂いております。夏の暑い時期や冬の寒い時期には就寝前にエアコンにて室温調整、冬はご希望者にゆたんぽを準備しております。夕方には良眠を誘う体操を取り入れております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の情報書をお預かりしてファイルに綴じ込み服薬情報を全職員が把握して、毎日管理を行っております。常にお一人おひとりの状態把握に気を配り支援させて頂いております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活の中で、掃除や洗濯干し、洗濯物たたみ、炊事等、お一人おひとりの能力に応じ役割を持って頂き、張りのある生活が送れます様支援させて頂いております。裁縫の得意な方には縫い物や、料理の得意な方には調理の下準備等お手伝いをお願いしております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	従来であればご利用者様の希望を取り入れ、月1回外出を計画して職員同行にて外出、外食の機会を作っていました。今年も感染予防の観点から行動が制限されている為、天気の良い日にオープンテラスでお茶を飲んだり、散歩等で屋外に出る機会を作っております。	コロナ禍以前は外出計画に基づき、新緑や紅葉狩り等に出掛けていた。終息後は再開予定である。広い駐車場から奥久慈の山並みや木々を見て季節の変化を感じられるよう工夫している。オープンテラスで季節の風を感じながら、お茶を飲んだりテイクアウトのお弁当を楽しむなど、外出が困難な状態でも季節感を味わえるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭能力が低下してしまっているご利用者様に対しては、ご家族様と話し合いの上、事業所において金銭管理を行い、月1回収支報告を行っております。金銭管理をご希望された利用者様にはご家族様の理解の下外出時の買い物や支払いを行って頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望があれば、いつでもご家族様へ電話をして会話をすることで、家族とのつながりを感じて頂けます様支援しております。毎年暮れには直筆で家族宛ての年賀状を投函してご家族様から喜ばれております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は広いスペースで天窓があり、明るい空間となっております。フロアには観葉植物や職員作の季節の絵画を展示し四季を感じて頂いております。入口内外にベンチを設置しており、奥久慈の山々の景色を眺める利用者様もおります。ガラス張りの中庭も見渡せ季節や天候を感じて頂けます。	食堂兼居間は天窓からの陽光で、明るく、冷暖房、湿度管理がなされた快適な空間になっている。観葉植物が置かれ、壁面には職員が作成した季節に合わせた作品が展示され、四季の変化が感じられるようになっている。壁際にはソファが設置され、一人で寛いだり、利用者同士の語らいができる場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには大きなテーブルを設置して団欒がもてる様になっております。壁際にソファを設置してゆっくりと休憩したり、玄関内外にベンチを設置して其々の場所で自由な時間を過ごして頂けます様工夫しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年自宅で使い慣れた思い入れのある家具家財やお気に入りの品物を持ち込んで頂き、ご本人様ご家族様の好みの居室作りを支援しております。ご家族様の写真を飾ったり、ご主人様のお位牌を持ち込んでいらっしゃる方もいらっしゃいます。	使い慣れた物、馴染みの物を持参し、自宅同様に過ごせるよう利用者や家族等に説明している。家族の写真やポスター、位牌を持ち込んで毎日手を合わせている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部壁には手摺を設置して自立歩行、下肢筋力低下等でふらつきの見られる方にはU時歩行器を準備して安全に移動ができます様配慮しております。バリアフリーで車椅子や歩行器利用の方でも自由に移動する事が出来ています。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 サングリーンピア大子ケアセンター

作成日 令和 5年 1月 5日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	契約時に看取りを行っていない施設である事を説明しており状況の変化に応じて話し合いを実施。緊急時対応マニュアルを整備しているが、勉強会は実施できていない。	重度化や緊急時に備えての研修会を定期的実施する。	看護師主催の重度化や緊急時対応の勉強会を何回かに分けて行って頂ける様依頼。開催時は研修記録を残す。	3ヶ月
2	35	夜間想定を含む避難訓練を行っている。反省会を行い話し合いを行っているが事業所独自の記録を作成し、課題を抽出するまでには至っていない。	事業所独自の記録用紙を作成、課題を明確にして次回の訓練に活かせる様に取り組む。	防火管理者と記録内容を見直し消防訓練実施結果の反省点をもっと具体的に改善していく。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。